

安倍元首相狙撃事件に思う

酒井 董美^{ただよし}

安倍晋三元首相（9日午前11:30）『山陰中央新報』10日紙面から

「母親が宗教団体にのめり込んで多額の寄付をし、（団体に）恨みがあった。団体と元首相はつながっていると思ったから狙った」という趣旨の供述をしていることが9日の、捜査関係者への取材で判った（10日付『山陰中央新報』）という。

それにしても簡単に暴力で人の命を絶つという行為が、安々と行われる土壌になっている今の日本に、慄然たる恐怖を感じる。いったいいつごろからこのような風潮が現れてきたのだろうか。人の思想というものは、まず、家庭生活の中で愛情豊かな家庭教育から自然に培われ、学校生活の中で、健全な教育や友人などとの交遊を通じて養われると筆者は考えている。

しかしながら、それらの環境が整っていないくて、不自然な場合、本人の成長について言えば、まともな精神の発達が阻害され、いびつに生育するのではないか。長らく教員としてきた筆者であるから、いろいろな家庭環境にある生徒たちを見てきたので、このような結論を持っているのであるが、いかがなものであろうか。この度のあつてはならない事件を考える場合、やはり犯人の過ごしてきた環境に問題があるのではなからうか。マスコミによれば、中学時代の同級生のコメントとして、無口だが成績はトップクラスだったという。また五半月ばまで勤務していた派遣会社のコメントでは、フォークリフトの作業だったようだが、今年初めごろまでは真面目だったが、四月以降、扱いがぞんざいになり、注意すると反抗的なタイドを示すようになったという。案外、このころから心に鬱積した不満が頭をもたげはじめていたのかも知れない。

母親が狂信的に宗教にのめり込み、家の経済が破綻するほど寄付をし、その様子にいたたまれなくなった山上徹也が、怒りの矛先を宗教団体のトップを襲撃しようと考えたが、その機会を捉えることが難しかったため、つながりの強いと考えた安倍元首相に標的を切り替えたようだが、それにしても困ったものである。

安倍元首相の出身地、山口県の人々に言わしむれば、気さくで、誰にでも声をかける安倍さんの人柄に、全幅の信頼を寄せていたようだ。別に自民党員ではなく、政党支持は無所属で通している筆者である。しかし、今回の狙撃事件については、絶対に起こしてはならないことと断言したい。そして今回の事件が呼び水となって連鎖反応を起こし、世情不安になることを心配する。どこの国にも付和雷同する輩はいるものである。

国内を見渡せば、幼児を置き去りにして熱中症で死なせたり、関係ない女子中学生に包丁で切りつけたり、人の命をなんとも思わない輩がいかに多いことか。私たちは今一度、背筋を伸ばして今回ような事件が二度と起きないようにしなければならぬ。